

実験・教育棟が完成

実験室や構造を“見える化”

東北工業大学（仙台市、樋口龍雄理事長）が、八木山キャンパス再整備事業の初弾として同市内に建設していた実験・教育棟が完成し、9日に



建物外観

竣工式が開かれた。設計・監理は佐藤総合計画、清水建設・仙建工業・阿部和工務店JVが施工した。全学共用の実践的な学習設備・環境を整えるとともに、大型実験室や構造、設備などを“見える化”

すること、学生・教職員の知的交流を促進するデザインとした。備品などの搬入を経て、今月下旬から供用する。

神事に続いて樋口理事長が早川謙二佐藤総合計画執行役員東北オフィス代表と清水康次郎清水建設常務執行役員東北支店長、内田浩二仙建工業社長、船山克也阿部和工

設計—佐藤総合計画、施工—清水JV



感謝状を受け取る清水支店長（左）

務店社長に感謝状を手渡した。

あいさつに立った樋口理事長は「昨年4月の着工以降、コロナ禍や福島県沖地震、物

価高騰などさまざまな出来事があった。工事の遅延を懸念していたが、工期内に完成を迎えることができた。施工者と設計者、関係者の尽力のおかげだ。大学全体の技術を高

用し、今後も高度な技術力を備えた人材を社会に送り出したい」と語った。

新棟の愛称は、学内公募により「Tech-Lab」（てくらぼ）に決めた。technologyとtechniqueを掛け合わせ、「気軽に立ち寄れる専門研究の入り口となる研究室」の意味合を込めた。

愛称を発表した渡邊浩文学長は「これまで個別に研究していた学生が集い、それぞれの学習状況を見ることができるよう、さまざまな建築素材を“生の教材”にした。

各階に階段状の吹き抜けを備えた多目的スペースの「Tech Spot」（コモンスペース）は、カー

ペットや木製家具、丘陵地を生かした自然換気などによりリラクセスできる空間とし、各実験室・研究室が、学科の垣根を越えた交流を演出する。

